01 / OVERVIEW

考えは書けています。
次は、理由をつなごう。

テーマ：高校生の学習と生成AI ｜ 初稿 475字・400〜600字の課題

68 / 100

MSP独自基準による参考評価

立場と全体の流れは明確。
「なぜ役立つか」を、もう一段。

良い点を残して、理由と対策を具体化しましょう。今回は語彙を難しくするより、「行動→学びの変化」を説明することが課題です。

点数の理由

評価項目	得点	答案から読み取れること
設問への応答・主張	**16** / 20	導入に賛成という立場が明確。利点・懸念・条件にも触れています。
理由・具体例	**11** / 20	数学や英語の場面は挙げられています。ただし「早く終わる」ことと「成績が上がる」ことの間の説明が不足しています。
懸念への応答・条件	**10** / 20	丸写しや依存の問題に気づけています。「気をつける」「ルールを作る」だけでは対策が曖昧です。
構成・つながり	**15** / 20	主張→利点→懸念→結論の流れは自然です。最後の段落で導入の条件を回収すると、まとまりが増します。
表現・読みやすさ	**16** / 20	文意は読み取りやすく、大きな文法上の乱れはありません。「誰でも」「はずだ」は根拠より強い言い方です。

今回、最初に直すこと

「早く終わる」から、「何ができるようになる」へ。

数学か英語のどちらか１つを選び、AIを使った後に自分で確かめる行動を足してください。

採点は練習用の目安です。実際の入試得点・偏差値・合格可能性を示すものではありません。得点の根拠を確認し、次の書き直しに使ってください。

02 / YOUR DRAFT

元の答案を、段落ごとに確かめる。

今回の問題｜MSPオリジナル練習問題

高校生の学習に生成AIを取り入れることについて、あなたの考えを400〜600字で述べなさい。利点と懸念の両方を踏まえ、どのような条件で活用すべきかにも触れること。

添削前の答案

475字｜句読点を含み、改行を除く

1 私は、高校生の学習に生成AIを取り入れることに賛成である。なぜなら、分からないことをすぐに質問でき、勉強を効率よく進められるからだ。これからは社会でもAIを使う機会が増えるので、高校生のうちから使い方を身につけることも大切だと思う。

2 例えば、数学で問題が解けないとき、AIに質問すれば解き方を教えてもらえる。先生に聞けない時間でも答えてもらえるため、一人で悩む時間を減らせる。また、英語の文章を日本語に訳したり、長い文章を短くまとめたりすることもできる。課題が早く終われば、ほかの教科を勉強する時間も増える。このように、AIを使えば誰でも成績を上げられると考える。

3 一方で、AIに頼りすぎると、自分で考える力が弱くなるという問題がある。答えをそのまま写して提出する人も出るだろう。しかし、これは使う人が気をつければ防げる。学校がルールを作り、生徒が正しく使うようにすればよい。

4 したがって、AIには悪い面もあるが、便利な点のほうが多いので、学校は積極的に導入するべきである。生徒もAIの答えをよく読んで理解することを心がければ、よりよい学習ができるはずだ。

ここは、書き直しても残しましょう。

① 立場を先に示せる
冒頭で「賛成」と明示できています。

② 学習場面を挙げる
数学・英語の例があり、話題が伝わります。

③ 懸念も考えている
依存や丸写しに触れ、一面だけで判断していません。

賛成・反対の立場そのものに点数をつける課題ではありません。どの立場でも、理由と条件を筋道立てて示すことを目指します。

03 / PRIORITY FEEDBACK

直すのは、まず３か所。

指摘 → なぜ直すか → どう直すか、の順に確認してください。

01 「便利」と「理解できる」をつなぐ

> 第２段落：「AIを使えば誰でも成績を上げられる」

課題が早く終わっても、自分で解けるようになったとは限りません。効果を言い切る前に、理解を確かめる行動が必要です。

書き換えの方向 例：数学では、AIの説明を読んだ後、画面を閉じて類題を解く。解けなかった箇所を確認すれば、理解が曖昧な部分を見つけられる。

02 「気をつける」を、行動のルールに変える

> 第３段落：「使う人が気をつければ防げる」

何に気をつけるかが決まっていないため、丸写しや誤りへの対策として弱くなっています。「誰が・何をするか」を示しましょう。

具体化の例 生徒は先に自分の考えを書く。AIを使った部分を示し、説明の正しさを教科書などで確認する。教師は必要に応じて考え方を本人に説明してもらう。

03 最後に「導入の条件」を言い切る

> 第４段落：「便利な点のほうが多いので、学校は積極的に導入するべき」

前の段落で挙げた懸念が、結論に十分反映されていません。便利さの比較だけでなく、どの条件なら賛成できるのかをまとめます。

結論の例 自分で考える過程を残し、出力の確認と学習後の振り返りを行うことを条件に、生成AIを学習に取り入れるべきだ。

このテーマで押さえたい周辺知識

① **出力の正確さ：**生成AIは、自然な説明でも誤りを含むことがあります。
② **学習の確認：**「説明を読んで分かった」と「自分でできる」は分けて考える。
③ **活用の条件：**学校の課題では、利用ルールも確認してから使う。

参考：文部科学省「生成AIの利活用に関するガイドライン Ver.2.0」pp.5–7、17–20（2024年12月）。②と具体的な練習手順は、本サンプルの指導上の提案です。
文部科学省の解説・ガイドラインを読む ↗

04 / NEXT ACTION

まず３文、書いてみよう。

全部を一度に直そうとせず、上から順に取り組んでください。所要時間は目安です。

- [ ] **1. 使う例を１つ選ぶ** 約５分
  数学か英語を選び、「どの場面で、何に困っているか」を１文で書きます。
- [ ] **2. 理由を３文でつなぐ** 約10分
  ①困っていること → ②AIで試すこと → ③自分で確かめること。順番に書いてください。
- [ ] **3. 懸念と対策を対応させる** 約５分
  「丸写し」には先に自分で考える手順を、「誤った説明」には確認先を示します。
- [ ] **4. 本文を書き直す** 約15分
  例と導入の条件を具体化して、400〜600字で書き直します。
- [ ] **5. 声に出して確認する** 約５分
  「なぜそう言える？」と聞かれそうな箇所と、字数を確認します。

途中の書き方の例｜この形を、自分の例に置き換える

数学では、解説の途中で分からなくなることがある。そこで、AIに「この式になる理由」を説明してもらう。その後は画面を閉じて類題を解き、説明を読んだだけで終わっていないか確かめる。

これは全体の模範答案ではありません。理由をつなぐための短い練習例です。

LINEで送るときは、この３点を。
① 書き直した文章、または途中の３文
② 自分で変えたところ
③ まだ迷っているところ

今回のゴール
「AIは便利だから」で終わらず、「こう使い、こう確かめるから学習に役立つ」と説明できること。

実際は設問と本人の課題に合わせて調整します。継続的な書き直しの確認は、ご利用プランの範囲で行います。